

会 議 録 (要録)

会議の名称	市民参加推進会議（第49回）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成29年8月4日(金)午後7時00分～午後8時17分		
開催場所	前原暫定集会施設 B会議室		
出席者	委員長	西尾 隆	委員
	副委員長	渡邊 大輔	委員
	委員	天野 建司	委員
		佐久間 博子	委員
		中谷 行男	委員
		三輪 茉莉香	委員
		一山 稔之	委員
		中村 彰宏	委員
		原 久子	委員
欠席者	大久保 勝盛 委員 五島 宏 委員 山下 光太郎 委員		
事務局	企画政策課長	三浦 真	
	企画政策課係長	古賀 誠	
	企画政策課主事	齋藤 彬子	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	一部不可	不可
傍聴者数	0人		
<p>【会議次第】</p> <p>1 開会</p> <p>2 市民参加条例運用状況等について</p> <p>(1) 提言の受け渡しについて</p> <p>(2) 提言に対する市長意見について</p> <p>(3) 第6期市民参加推進会議のまとめ</p>			
<p>【会議結果】</p> <p>1 開会</p> <p>2 市民参加条例運用状況等について</p> <p>(1) 提言の受け渡しについて</p> <p>平成29年6月29日(金)の提言の提出の際の様子を、事務局が説明した。友好的に進んだことを当日同席していた委員長が報告した。</p> <p>(2) 提言に対する市長意見について</p> <p>資料2に基づき、事務局が説明を行った。</p> <p>【主な意見】</p> <p>○ 前向きな回答をいただけた。今後は、実際にやっていただけるのか確認していきたい。</p> <p>(3) 第6期市民参加推進会議のまとめ</p> <p>各委員が感想や次期会議への申し送りを述べた。</p> <p>【主な意見】</p> <p>○ 最初何をやっていいのかわからなかったのも、新たな委員にも理解できるような形を取るべき。</p> <p>○ どういう発言をすべきかわからないこともあった。</p>			<p>(該当ページ)</p> <p>P1～2</p> <p>P2～3</p> <p>P3～17</p>

<ul style="list-style-type: none">○ サイレントマジョリティを施策に反映させてほしい。○ 発言しやすい環境を作るためにも、議事録の修正が可能なことは伝えたほうがいい。○ 市民参加について、議題が尽きたら休むのも一つの手だと思う。	
<p>【提出資料】</p> <ol style="list-style-type: none">1 第6期小金井市市民参加推進会議提言2 市民参加条例第27条第1項の規定に基づく提言に対する市長の意見	

第49回小金井市市民参加推進会議

日 時 平成29年8月4日（金）午後7時00分～午後8時17分

場 所 前原暫定集会施設 B会議室

出席委員 9人

委員長 西 尾 隆 委員

副委員長 渡 邊 大 輔 委員

委 員 天 野 建 司 委員 一 山 稔 之 委員

佐久間 博 子 委員 中 村 彰 宏 委員

中 谷 行 男 委員 原 久 子 委員

三 輪 茉莉香 委員

欠席委員 大久保 勝 盛 委員 五 島 宏 委員

山 下 光太郎 委員

事務局職員

企画政策課長 三 浦 真

企画政策課係長 古 賀 誠

企画政策課主事 齋 藤 彬 子

傍 聴 者 0人

（午後7時00分開会）

◎西尾委員長 ほぼ時間ですので、皆さんおそろいになったので、始めたいと思います。第49回市民参加推進会議を始めたいと思います。

今日の出欠なんですけれども、大久保委員、山下委員、五島委員から欠席の連絡が入っております。定足数につきましては、市民参加条例施行規則第24条で、半数をもって成立することですので、本推進会議は成立いたします。今日は第6期委員会の最後の開催となりますので、どうぞよろしく願いいたします。切りのいいところで5分程度の休憩時間を入れる予定だと、私の手元に書いてあるんですが、意外とこれ必要ないかもしれません。

それから、会議の進行に際しまして、会議録を作成する都合上、ご発言の前にお名前をいただければ助かります。

では、まず、配付資料につきまして、事務局のほうからご確認をお願いいたします。

◎事務局 企画政策課長です。それでは、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、「第6期小金井市市民参加推進会議提言」及び「市民参加条例第27条第1項の規定に基づく提言に対する市長の意見」の2点でございます。配付漏れ等ございませんでしょうか。

以上でございます。委員長、よろしく願いいたします。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

それでは、今日の議題、3つありますけれども、まず次第2の提言の受け渡しについてを議題としたいと思います。資料1が小金井市長に提出した提言書の写しです。これは6月29日の夕方、市長に手渡しました。この日の様子につきまして、事務局のほうから紹介をお願いいたします。

◎事務局 ご報告を申し上げます。

資料1、第6期小金井市市民参加推進会議提言につきましては、委員長おっしゃいましたとおり、6月29日木曜日の16時に、正副委員長にご参集いただき、委員長から直接、小金井市長へ提言書が手渡されてございます。当日は、平日の夕方というお忙しい時間帯でございましたけれども、西尾委員長、渡邊副委員長、原委員、五島委員、大久保委員の5人にご出席をいただきまして、事務局も同席してございます。提言書の提出に際しまして、西岡市長からは、「本日、第6期市民参加推進会議からの提言書を頂戴した。2年間の長きにわたりご議論された成果だと考えている。しっかり受けとめるとともに、提言書については別途回答させていただきたい」の趣旨で市長からご発言をいただいております。その後、出席された委員の皆様との懇談が行われまして、17時ごろに散会してございます。当日の様子は以上でございます。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。何かご質問とか、何かつけ加えることとかおありでしょうか、参加された方々。

◎西尾委員長 1時間どんな話をしたんですってね。1時間も話していたんですね。

何かここでできる・できないとかいうのはほとんどなくて、非常にそのまま受け取ってくださって、私たちもいろいろ発言はしましたがけれども、極めて友好的な感じで会が進みましたことを報告いたします。

特になければ、では、この次第2の提言に対する市長意見を議題としたいと思います。

では、これについて事務局のほうからご説明お願いいたします。

◎事務局 それでは、ご説明いたします。提言に対します市長意見につきましては、本日、委員の皆様は資料2として配付してございます。詳細は資料をご覧くださいと思いますが、全体は4つの段落となっておりまして、ワークショップの運営について、ワークショップに係る広報について、フィードバック（議論の成果について）、その他としてございます。なお、この市長の意見に関しましては、今期の会議終了後、市のホームページに掲載する予定でございます。

事務局からは以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。では、議題2、今日はこういう市長の意見、ご回答のようなものをいただきましたので、少し感想などをシェアできればと思いますが。何かございますか。

1のワークショップの運営については、我々の提言をほとんどなぞってくださっていると言いますか、いずれもワークショップを開催して、テーマに応じて活用していきたいということ

で、参加者に一定の特典、あと、インセンティブを与える点については、慎重な検討が必要であると考えるという、ここだけちょっと留保されているという感じですね。

2番目の広報についても、市報やホームページを通じて、SNSのことは書いていないかな、市民参加を呼びかけるように努めたいと言っておられます。

それから、関連のある大学のゼミと記されていますね。

3番目の、議論の成果の反映という意味でのフィードバックについても、発言者の名前を伏せて、市のホームページや報告書で公表していくと言っておられます。

4番目の開催日時や場所など、こういうことについても全て書いてあるんですけども、できるだけ多くの多様な市民の参加を促すことができるよう配慮すると。

それから、これは、原さんが言われたんですかね、ワークショップ終了後に市の職員と交流ができる場所というふうなことも、提案について、積極的にそういうことを行いたいと考えていますし、市の職員がファシリテーターとしての役割を担うようなことも、そういう環境整備、そして、研究を進めてまいりますと書いてあります。

ちょっと、すぐにやるかどうかは、若干あるかもしれませんが、前向きなお返事をいただいたと思います。

何かご意見はありますか。

◎渡邊副委員長 私もこの意見の回答書を拝見いたしまして、基本的には非常に前向きなご回答をいただいているのかなと思います。こんなに前向きな回答ってあまりいただけない気がしますので、かなり前向きで、かつ、「努める」という表現が多いんですが、実際にやっていただけとを考えています。一番最後のところは確かに研究という表現で、具体的にどのようにやるのが、ファシリテーションの部分ですね、道筋がぱっと浮かぶものではないので、少し研究という形で濁されているのかなと思います。提言書としてはおおむねご理解いただいていると考えていいのかなと。なので、あとは提言書、実際にこれをどのようにやっていたか今後の課題として、ぜひ拝見していきたいと思う、そういう形なのかなと思っております。

◎西尾委員長 ちょっと当日の手渡したときのメモがあるんですが、市長は、常々対話を大切にするとおっしゃってきかれますね。その自分の考え方に合致するような提案をいただいたんで、そういうことを進めていきたいという返事をいただきましたね。

そのほか特によろしいでしょうか、この議題2のところは。

前回2年前は、これが大分紛糾というか、表現が何か霞ヶ関風だというふうな意見があって、やらないんじゃないかなという感じがありましたね。今回はそういう感じがなくて、素直なご回答をいただいたと思います。

特にないようでしたら、3番の、第6期市民参加推進会議のまとめを議題としたいと思いません。本日これが最後の議題ということで、今期の最後でもありますので、何か皆さんから感想などをいただければと思います。この次期委員会への申し送り事項があれば、まとめるというわけではないですけども、メモ風にして伝えることもできると思います。これ、議題はどっ

ちに入ってもいいんですけれども。これだけはぜひ次の委員会に言っておきたいということがあれば、それも伝えてもいいかなと思います。

◎一山委員 ぜひ次期の方をお願いしたいのは、最初何をやっていいかわからないという期間がかなりございましたので、できるだけ助走期間を短く、ミニ講義とか、こういうことをやる会議だよということを委員会の前の準備で集まったときとか、初回のときにご説明をいただかないと、いきなり議事運営を始められても全くわけがわからないということでしたので、まあ私だけかもしれませんが、ぜひ、次期の方には、本題のほうで時間を使っていただきたいと思います。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。

◎原委員 市長はじめ議員たちは、如才なくすごくカッコいいことを言いますが、これも、考えますとか、努めますとか、研究しますとか書いていますが、今度委員になった人は、1年ぐらいたったらこれどこまで、考えましたか、努めましたかというのを確認してもらいたいです。

◎佐久間委員 先日は、すっかり日にちが書いていなくて、飛んでしまって、お休みしてしまって申し訳なかったです、連絡もしていません。

今のことですけれども、私も最初というか随分な間、何をやっているのかよくわからなくて、つまり、何をすればいいのか。最初私は具体的な提案をするのかと思っていたんですけれども、そうではなくて、その根幹の政策とか理論に対してのものをやっていることが相当後になってわかって、最初のころは何をやっているのかがよくわからなかったということです。

あと、提言ですごくいいことをおっしゃっているんですけれども、やはり検証を次の委員の方にしていただきたい、どんなふうにしたか。

◎西尾委員長 ありがとうございます。

◎三輪委員 前の方々が言われたように、私もやはりどういう発言をするべきなのかとか、あとは、ちらっと思うことがあっても、こういうことはこの場にふさわしいのかと考えてしまうことも結構あって、なかなか発言できなかったこともありました。

あと、今も私が考えている小金井の市民参加推進会議と、あと、市として求められているこの会議のあり方と、どういうふうなことについて話し合っただけで意見を出したらいいのかといったところが、条例とかもあるんですけれども、市民のところに来るまでにはぼやけてしまっているのかなと思うところがあるので、具体的ではないんですけれども、どういうことをやるべきか、どういうことを言っているのか、言っちゃ悪いことはないと思うんですけれども。そういったことは結構感じていました。

◎西尾委員長 大体似たような感想をお持ちなんですね。特に会議の前半。

ちょうど時計回りに回ってしまして。

◎中村委員 皆さん非常にいいご意見をおっしゃっています。一山委員は、新しく入る方に対して会議の趣旨をどう的確に伝えていくか、これは非常に大事なことだと思いますし、もう12月から代がわりになるということですので、その辺はまたすぐに実行できる体制をつくって

いく必要があるんじゃないか。想像でものを言ってあれなんですけれども、半分ぐらいの方がおそらく変わるんじゃないかと思いますので、それならなおさらのこと、すぐ1回目のスタートからトップスピードで議論できる仕組みづくり、事務局の方のご協力もいただきながらやっていく必要があると思います。

それから、原委員がおっしゃった、我々の提言が市の施策において実際に反映されているかどうかという提言のチェックと言うんですか、その辺も非常に大事だと、ごもつともだと思います。

最後に、私の意見で申し訳ないですけれども、市民参加というのは非常に多岐にわたって難しいと思うんです。それで、どこにポイントを絞っていくかというのが非常に大事な点であると思いますので、その辺はやはり徹底的に議論し尽くして、市民参加というのは根本のところはどう捉えるかということですね、市の施策もありますし、市民の要望もあって、それをうまくミックスした形で、どのように具体的に提言していくかは非常に大事なことだと思いますので、その辺は徹底的に論議できるように、なかなか難しいと思いますが、1回目から新たに入られた委員の方がすぐ理解できるような形で進めていくことが大事だと思います。

それと、市民参加というのは、大きな声で強く言う人だけの意見が反映されるだけではだめだと思うんです。なかなか難しいと思うんですけれども、声なき人の声を、サイレントマジョリティじゃないですけど、そういったサイレントマジョリティをいかに吸い上げて市の施策に反映していくかというのは、ここが一番大きいところだと思います。発言はしないけど思うところがある、あまり言えないような人からの意見をどれだけ吸い上げて市の施策に反映するか。日ごろ声高に強い口調で言う人の意見だけを取り上げるのであれば、それはちょっと偏った意見の採用になると思うので、やはりサイレントマジョリティの声をいかにたくさん吸収して市の施策に提言していけるような市民参加の会議であってほしいなと常々思っています。

◎天野委員 まず、委員の皆さん、どうもありがとうございます。貴重なご意見等々をいただきまして、非常にいいメンバーだったなと思ってございます。まず、ワークショップの件でございますが、手法的には参加している人の充実感が持てる手法だなと思いました。ただ、そのやった後の取扱いというか、それをどう成果として取り入れていくのかというのは、行政側としては課題があると思っています。何と言っても、どんな市民参加であっても、どうやって集まっていたかというのはまだ課題としてあるなと思っています。それから、提言のほうにも書いていただきましたが、市職員のファシリテーター力というか職員力をどう養っていくのか、これはいろいろな場面での経験だったりするのかもしれないので、今後とも、職員が地域に出たり、いろいろな場面に参加したりというところで養っていくのかなと思っています。

それから、審議会の運営ということも考えていまして、幾つか意見をいただきました。最初に、どういうふうに話していいかわからないということがあったんですけども、自分もいろいろな会議に出たりしたときに思うことがあって、同じような、空気感がどうなのか、こんな発言していいのかって、私も思うときがあります。そういうときに、議事録をとらない休憩時

間とか、事前に30分くらい自由に発言して、今日はこんなふうにやりますなんていうふうにやったらいいのかなとか、そんなことを考えたりしました。要するに、審議会の貴重な時間をいかに活発にみんなから意見をいただけるかという中で、ちょっと工夫というのは必要かなと思います。例えば、委員になられた方に対して事前に資料を渡したりとか、電話でも何でもいいから、こんなことを考えていますなんていうお話をしてお話をして参加していただけたらなと思います。

それから、前の市民参加推進会議のときもお話したかもしれませんが、事前のフォローと、また、今日参加していただいているこのメンバーの皆さんにもアフターフォローができれば、より小金井市の市民参加が広がっていくのかなと思っております。

◎中谷委員 私は途中、後半の最後のほうでかかわったので、私が来たときにはもう既にワークショップをやって若者の声を聞こうというところから入っていますので、前半の皆さんの感想で言うよくわからない時期を経験していないものですから、ある程度は絞った状態だったなと思うんですが、そういうふうにやってもらったほうがいいのかと思いますね。

次期の話で聞いていて、事務局もいらっしゃるのに差し出がましいんですけども、確認をする、検証することが絶対必要だというのは、そのとおりだと思うんです。例えば、今回のことを振り返ってどうするのかと言って簡単に思いつくのは、ファシリテーターをやった職員が実際にもういらっしゃるんですね、前回やった人は。で、その人たちがどう思ったかというのは、フィードバックされるのが1点必要だということ。それから、実際ワークショップをやって再配置の話をしたので、それが今どうなっているのかを本当は突き合わせをすればいいんだろうなというのが2つ目です。

3つ目は、前回ワークショップに来ていただいた追加感想じゃないですけど、追跡調査と言うんですか、出ていただいて、今、市の施策がどういうふうになっているという現実が、たかだか半年だから、そんなに動きはしないんですけども、そういうのがあって、ただそれを客観的に参加された方々がどう思ったのかを、例えば、第7期の人のときに、6期ではこういうことを考えて実際こうなったけど現実今こうですよというのを資料で出してスタートすると、市民参加の手法と検証と、やったものに対して6期のことがどこまで成果がありましたというのがあった上で、7期として今度何をターゲットに絞りますかというのをフリーで出していただくというのをやると、成果が見えるのかなと、一般的には思うんですね。ただ、私は今事務局じゃないんで好き勝手しゃべっていますけれども、多分どう思っているかいろいろあると思うんですけどね。すごい嫌なこと言っているなと思って聞いているかもしれないですけども、検証するという意味でいくと、そういうのが一番わかりやすいし、それをやるということになると、7期の方は、じゃあ、何をやるとどういうふうにこれがまた反映されるというのが、サイクルがわかるとやりやすいのかなと思うので、そういうのも1つの考え方かなと思うので、その辺は事務局も含めて検討していただくと非常にいいのかなと思います。私は途中から来て、おいしいところだけ参加しているなと思っているので、わかりやすいやり方をしていただいたなという感想を持っていますので、お礼です、どうもありがとうございました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。委員の皆さんからご意見をいただきましたが、事務局のほう何かご感想などありますか。（「聞きたい」の声あり）

◎事務局 古賀です。私も途中からの参加になりまして、今まであまりこういった市民参加推進会議とか、正直何をやっているんだろうというところから入ったような感じです。今回ご提言いただきまして、ワークショップをやったりとか、ファシリテーターとか、いろいろ課題をいただいているなと感じています。12月からまた新しいメンバーの方々とともに、今回いただいた提言に関してどういった形で事務局としてフィードバックできるのか、具体的にどうできるところでございせんけれども、しっかりと新たなメンバーの方々とともに検証していけたらなと考えております。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。いかがですか。

◎事務局 齋藤です。私も途中からの参加ということで、最初何をやっているのか全くわからないところからの参加でして、高橋のほうから状況を聞きながら参加したところでした。実際にやってみて、こういった会議体に出席することも今回この会議が初めてでしたし、実際にご意見をいただいて、実際にやってみる、職員としてファシリテーション能力を問われたときに、今の自分ができるかなと考えてみると、なかなか難しいというのが実態でして、では、実際に実現するためにはどうしたらいいんだろうと考えると、すぐにはなかなか難しいかなと思うんですけれども、こういった参加していただいている方とお話をして、できることからやっていくのが一番の近道かなという印象です。今回のお話でも、検証をしっかりとってほしいというお話をいただいていたので、まだ事務局としてかわりますので、そのお手伝いをしっかりとできるようにしたいと思います。ありがとうございました。

◎事務局 三浦でございます。2年間ありがとうございました。会議の運営につきまして皆様に多大なご迷惑をおかけしてしまって、大変恐縮でございます。若者の市政参加というところでこの間ご議論を展開されてまいりまして、非常に勉強になったという思い、ワークショップなどは、ほかの課のところがあったところを私のほうがサポートするというので勉強いたしました。今ここで申し上げるとちょっと怒られちゃうんですけれども、ワークショップはあれが初めての経験ではあったんですが、実際には庁内で前段に2回ほど練習して、やっとなの形になったというのが現実でございます。その練習も、1回やると、担当する職員同士で練習しているものでうまくいかないんですね、きれいな形が出てきてしまう、これじゃあいかならうということで、違うセクションの職員を呼んできて、2回目の練習をしてみて、ああいう形でやっとなにかうまくできました。ですので、検証ということはもちろんですけれども、申し上げましたとおり課題を1つずつクリアしていくことが重要なことということで、少しお時間をいただいて、温かい目で見守っていただきたいと思います。皆様長い間ありがとうございました。

◎原委員 すみません、いつもテープを起こしてこういう資料をつくっていますよね、このテープ起こしは本当に大変なんですよ、私、昔、書記して、これやったことあるんですけど、こ

れはもっと要約して書いちゃいけないんでしょうかね、箇条書き。読むほうも大変だし、何を言っているかわからない、要するにこういうことを言いたいんだろうないうように、文章が長くなるとそういうふうには読めないから、もっとこれはこういうことを言いたいんだ、言いたいことの違いが違ふんなら言ってくださいみたいな、訂正文のあれが送ってきますよね、意見のある方は電話なりファクスなりやってください、それだったら、箇条書き的に書いて、こういう意味で言ったんだよ、こういうんじゃないんだよとか言えるけど、延々とあると、こういうこと言いたいのかなって、聞かないとわからないと。このテープ起こしの仕事に1人がずっとかかっているんじゃないかと思うほど大変な仕事で、これはものすごい無駄だと。紙は1年でこれぐらいたまりましたよね。私この資料、このテーブルのここって決めて置いているんだけど、すごいな、1人でこれだから10人いたらこれだよ、ごみ減量と言っているくせにとか、しょうもないことをいろいろ考えています。

それと、初めに高橋さんが機関銃のようにわーっと読み上げて終わっていたから、は一つ、聞き取るのも大変だったし。齋藤さんなんかちょっとゆっくりしゃべってくれるのでよく聞けるけど、これ批判しているわけじゃなくて。だから、これをもう少し簡素化して書けないのかなといつも思っていました。

◎事務局 一応約束事の中では、会議録の作り方として、全文記録にするか要点記録にするかというのは、この委員会の中でご議論いただいて決めるということになっておりました。この委員会においては、要約版と全文を作ろうという約束事になっていまして、要約版のほうは齋藤が担当いたしました、今、皆さんお手元にあると思うんですけども、非常にシンプルに作ってあると思います。ただ、全文記録のほうは、速記会社に委託してございますので、職員が起こしているのではなくて、速記会社がリライトしてくれて、それを職員が目で見えて追っていく感じになってございます。可能な限り省略化はしているということでご理解賜りたいと思います。

◎原委員 ワークショップでもそうですけれども、今これは外注しているようで、市のは結構外注しているんですね。

◎事務局 議事録につきましては、原委員おっしゃるとおり、私の経験で申し上げますと、2時間の会議で8時間ぐらい、4倍ぐらいはかかると思います。それに職員のマンパワーを投入するよりも、外注に出したほうが経費的にもそこは見合うのではないかと思います。

◎原委員 私は、大変だなと1年間思っていたんです。

◎西尾委員長 この要約はいかがですか。簡素すぎるというのはどうですかね。今回は1枚紙であると思うんですが。

◎原委員 でも、これはこれでいいと思うけど。まあ、外注に出しているなら、それはそれでいいかもしれないけど。参加していたら、レジュメだけ書いていけば、そうかこんな話したなって大体わかるじゃないですか。覚えとかないかんことはメモとっているし。

◎一山委員 この要約はすごくいいんですけど、要約だけになりますと該当ページというのも

使えなくなるので、そうすると、要約と実際のやつの中間あたりのいわゆる議事録というのを
お作りになるか。あるいは、仕事量で考えると今の方式で、速記でつくっていただいたやつを
市の方が要約にして、詳しいのは参照ページを見ればわかるということで、こういう形になっ
たのかなと推察するんですけれども。そのあたりは、ほかの会議体とか委員会とかでは大体ど
ちらが多いんでしょうか。

◎事務局 どちらもありますけれども、全文記録のほうが事務局としてはありがたいというか、
外注をしておりますので、作業負担は軽いです。

◎天野委員 確かに会議録を作るときに悩むんですよ。それで、事務方からすると、要点の場
合、委員さんの発言をどうまとめるかというのはすごい悩むんですね。だから、悩むぐらいだ
ったら言ったとおり起こしてしまうほうが作業的には楽な場合があります。なので、市民参加
推進会議の場合、結構重要なことを議論していただく場合があるので、委員の方々のご発言を
そのまま全文筆記をとることを従来からやっています。ただ、これだけだとたくさんあるので、
読むのが時間がかかるということで、さらにプラスアルファで要点も作るという……

◎原委員 もっと手間がかかる。

◎天野委員 そうですね。ある意味、フルサービスじゃないですけど、の体制をとってやって
いる組織体というか、審議会でもあります。審議会によっては、要点記録だけで運営している
審議会もあるんですが、それは、その審議会が審議する内容によっても変えているのかもしれ
ません。ただ、事務方とすれば、委員さん1人1人のご発言を、委員さんの気持ちをどうまと
めて書くかというのはものすごい神経を使ってしまうので、それを悩むぐらいだったらという
思いで、このようなこともあると思います。

◎西尾委員長 ありがとうございます。そういうことを何うと、なるほどなという感じはあり
ますよね。

◎原委員 でも、提言の中で、ワークショップが終わってすぐ終わるんじゃなく残すためにっ
てありましたよね、それと一緒に、さっきおっしゃったように、始まる前の30分は言いたい
ことを言っておいて、さあ始めます言うたら、それを凝縮した意見だけを言うみたいにしたら、
議論がぎゅっとなるかもしれないですね。実質はわからないよ、そうなるんじゃないかと。

◎西尾委員長 今までの議論は私の責任がかなり大きいと思うんですが、会議の進め方ですよ
ね。わりと、前半の全体の中での、大きな1つの課題だったんだなと感じたんですけど。

ほかの市民参加推進会議とは性格違うかもしれませんが、まず、ヒアリングを始める
というところもあるんですね。今回で言うと、前回の去年の市民意見交換会の参加者のような
人に話を、経験をまとめてもらって、資料をぼんと出してもらって、それが議題になるかどう
かがあるので、2回目ぐらいになるかもしれませんが、事務局でこんなものを用意して
いますがどうでしょうかということをする、質問やら何やらで議論の共通の素材ができると思
います。

私はね、別な研究所なんですけど、地方自治研究機構というところですが、今年度の若者の

参加についての委員会に入ったんです。そこでは、もうテーマは決まっているんですけども、新城市というところが愛知県にあるんですが、若者議会というのをやっていて、これは市長が若者に焦点した政策を自分はやりたいと言って当選されて、そして、若者を集めたら若者が議会をやりたいと言うので、これは市長は全然期待していなかったそうです。若者が議会をやりたいと言うので若者議会、今年で3回目なんですけど、やって、図書館の使い方とか、交流スペースをどんなふうに確保するかというテーマで、そこと新城市の担当職員がまずそれをプレゼンしてくれて、まだ2回しかやっていないんですけども。というふうに、ちょっと見つろってプレゼンするというのはよくあることだと思いますね、ヒアリングみたいなものもありますね。何から議論しましょうかと言うと、何を議論していいのかわからないみたいなのがちょっとあったんだろうなというのが少し反省としてはあります。

◎三輪委員 先ほど1人1人話していたときに天野委員が幾つか言われていたと思うんですけども、市の職員の立場の方からも、今、市民の参加について何か課題に思っているのは多分あると思うんですけど、それとは全然違うところで何を話しましょうというところから始まってしまうと、市が求めているというか、課題に思っていて解決したいと思っていて一番実効性があるというか、こうやろうとなったらスピードも速く進めるところとずれたところの議論が起こってしまって、ずれたところでこうしようと思っても、市側もそこにマンパワーを割けないということになってしまうのではないかなと思うので、先に市がこういうことを課題に感じていますということが入ってもいいのかなとは思っています。

私たちが最初始まったとき、ちょっとうろ覚えですけど、第5期の方が次は若者の市民参加でみたいな形だったかなと思うんですけども、それだけぽんと言われても、本当にそこに進んでいたのかということはあると思うので。市からのそういう要望とかでしたら、事務局さんとかも参加されているので、その会議の場でも質疑応答もできますし、わかりやすい議題で入っていきやすいのかなと思います。

◎西尾委員長 どう言うんですかね、この会議の切実さというかね、これで皆さんの意見を聞かないと我々動けないですみたいなことじゃなくて、この会議がなぜここにあるかがすごくクリアになるようなメッセージがあるというところはありますか。

◎三輪委員 そうですね。あとはそこまで切実な場面は見たかどうかわからないんですけど、こういうことで、何かあって、そのことについて市民の意見が聞きたいというか、どういうふうに考えているのかが知りたいとか、そういったことがあるのであれば。

◎一山委員 事前にできるだけそういうレクチャーをしたり、議論のテーマみたいなものもお話ししてやるべきかなという思いはあります。ただ、かといってあまり発言を狭めたりとか誘導してしまったりしては本当の市民参加ではない部分があるので、その辺の兼ね合いを考えなきゃいけないかなと思います。ただ、議論をスムーズにというか、効率的に進めることにおいては、事前にレクチャーをしたりとか。今回もよかったかなと思っているのは、委員長はじめ副委員長も参加していただいて懇親会みたいなこともやりました。そういうことをしてフランク

に話せるようなことをすると、わりとその後の話がスムーズに行ったりすることもあるので、そういう気楽に話せる雰囲気も必要だと思います。

◎佐久間委員 私は全く素人で、どんなことをやっているのかなと思って参加したんですけども、ここで議論していると博識な方がほとんどですので、自分が話していることがちょっと軽薄なんじゃないかとか、話し方も論理的でないとか、いろいろなことを考えて、だんだん発言しづらくなってきてしまうので、ですから、何らかの、いろいろ今まで参加されてやってきた人はともかく、私のように全くそういう経験がない者にとってはやはり難しいんじゃないかと。自分勝手に思っていることをしゃべっても浮いてしまうというか、話になっていないんじゃないかってわりと思うことが多かったです。

◎三輪委員 それが全文テープ起こしされて。

◎西尾委員長 それでも、議会もやっているところありますからね、議事録が全部残るわけですからね、だから、地方議会はインターネットで見てもかたい感じですよ。で、全員協議会というのは傍聴はないんですかね、もうちょっとざっくばらんにしゃべるんですかね。

◎事務局 傍聴はございます。

◎西尾委員長 雰囲気は違いますか。

◎天野委員 傍聴がない議会の話ですか。

◎西尾委員長 全員協議会というのは議事録はないんですか。

◎天野委員 全協はあるんですけども、議事録をとらないような議員さんに説明するような場面もあります。その時は、それなりに自由というか。

◎西尾委員長 どうしても議事録をとられると読むということが多くなるような気もするんですよ。ここはそんなことはないですけど。

◎天野委員 今、佐久間委員がおっしゃったようなお気持ちでよくわかるんですけども、それを打開するためにはどうしたらいいか皆さんにお聞きしたいんですけども、参考にできればと。

◎佐久間委員 本人が、要するに努力と勉強が必要かと思えますけど。

◎三輪委員 あとは、言ったとおり、詰まったりもするじゃないですか、そういうのも含めて全部公開されてしまうのは。あとは、いいのか悪いのかわからないですけど、全部、誰が言った、誰が言ったというのも含まれてしまうので。

◎佐久間委員 スキルの違いがすごく感じられるという。

◎西尾委員長 前期の第5期のときには、どういう、ワーキンググループという言い方をしましたね。それは謝礼が出ないので申し訳ないって事務局が盛んに謝るんだけど、いやいや別にいいですよという感じで、市民活動をされている人、夏に祭りをされているグループがいますね、武蔵野公園のあたりかな、キャンプみたいなことをされているグループの、市民参加というか市民活動なんですけどね、そういう方を招いて話を聞いて意見交換をして、というふうなことをやって、それは議事録全く残らないんだけど、ときどきそういうふうなのがあってもい

いですかね。でもね、事務局は明らかに申し訳ないという感じで言っておられたんですね、皆さんに集まっていたのに謝礼が出ないということですね。

◎原委員 それはおかしいと思う、市民だから、市のすることがよくなればと思うのは、NPOの公民館じゃないけど、あの人たちは全部ただですよ、それでも歴々の肩書きを持った人たちがやっていますよね。だから、そういうのを考えたら、私はこの会では決して、本当に、マネー泥棒じゃないかと思うほど役に立っていないと思っているから、何かの形で返さなきゃなとか考えているぐらい、ボランティアだって、50年も60年も長く小金井に住んで、小金井の何かやれることならやりたいという感じです。

◎西尾委員長 すみません、ワークショップじゃないですね、ワーキンググループの検討会というタイトルだったんですね。前回の提言の冒頭に書いているんですが、ヒアリングと2回ほどやったんですね、ワーキンググループによる検討会、ヒアリング。

でも、そういうことも率直に言っていて参考になりました。全文が文字になって公開されることがって。

◎原委員 あれは、業者にやってもらったと言うけど、カラーのこういういろいろなパンフレットはよくわかって、参加した人もすごく楽しかったし、よくわかったし、へえ、そうなんだとか、こうなんだとか帰ってきて言っていましたよ。私のお金じゃないから楽しかった、好きなことを言ってきたって言うけど。

それと、この前、提言書を渡すときに言ったけど、西岡市長は、若い人が五、六人集まると、どこで聞くんとか知らんけど、ふっと顔出して参加しているんですよ。あの人は昔、学保連の事務局していたから、机並べから机拭きまでみんなやっちゃうんですよ。市長がそういうことをするんだってことで、本当に若い高校生とか子どもとか、そういう人にとっちゃ、へえ、市長ってこんな気軽な人なんだと思っているから、今年は若い人を募集したら市長が顔を出したところの人たちが集まるんじゃないか、それに期待したらどうですか。まめに出ていますよ、で、ちゃんと話して。だから、その子たちにとっちゃ、行政とか市長ってあの辺の人じゃないですか。でも、へえ、こんなに気安い人なんだって感じで、初めはこんな感じで参加拒否みたいな顔をしていたけど、今なんか、市長来たよ～って、本当に仲間が来た感じで話しています。やっぱり出前がよかったです。そこらを期待して集めてもらってください、若い人を。

◎一山委員 どうなるかわからないんですけども、次期の方たちがやりやすいように、それで、まずお願いしたいのは、何でも言える雰囲気づくり、途中で暑気払いで、あの後大いによかったと思うんですけども、もう少し早めにやっていただけないかなと……、（笑）

それから2点目は、会議録の作成なんですけれども、女性消防士の話を私が発言したときに、アメリカの事例でご説明があって、オフレコの部分もありました。これはどうしてもやめてほしいというのであれば、オフレコというのを必要に応じて活用なさったらどうかと。そうしたら自由に発言できる。そのかわり、載らないわけですから意見としては通らないということになります。

3点目は、自由討論型というのが非常によいということであれば、休憩5分の前半は自由討論型と。だから、事前に30分のレクチャーというのは、話すとやはり2時間半とかになりますので、前半部分が1時間のフリーにしても、30分とか40分の前半はフリートーク。その場合は録音する・しないは、皆様方のご意見を聞く。後半はかっちり進めないといけないというようなこと、その3点をもし可能でしたら委員長がまた運営なさるときに頭の片隅に置いていただければと。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。公式会議は短いほうがテープ起こしのコストが安くなるから、いいかもしれない。ウォーミングアップを自由にやって、というのも一つの考え方でしょうね。それこそ、こういう進め方はまさに市民参加で知恵ですよ。

◎原委員 私が今日午前中、五島先生の学校で、やっぱり若い人を集めようみたいな話をしたんですけど、吉祥寺の地域のまちづくりというところがあって。そのときは自由トークでした、最後にその委員長が、今日は、こういうことと、こういうことが決まりましたねってということで、決まったのこれ、みたいな感じですよ。だから、何でも言えるし、議事録なんか見たら、私なんかちゃんとした日本語全然しゃべっていないなと思った。今度からちゃんとした日本語しゃべります。そういうふうにレジュメ的にまとめてくだされば書くほうも楽し。

◎一山委員 何でも言える雰囲気づくりというのは、会議録のときに、多少変なことを言ったり日本語がおかしくても許される雰囲気で、読んだ人は、ああ何か楽しそうな会議だなとか、こんなだったら行ってみようという感じが出せるような、ですから、ぜひ、最初のころに皆さん、よろしくお願ひします。最初に本音トークができるような関係になっておけば、後々すごい楽しだと思います。1人すごくかたい方が新しく委員に来られたら大変かもしれないですね。

◎西尾委員長 会議は、会議室でやると、こういう形式が、これがスタイルでしょうね。

◎原委員 でも、それぞれ勝手なことを言っている、最後は渡邊副委員長がまとめてフォローして下さるからよかったですよ。

◎西尾委員長 もしそのほか何かこれもということがあれば、だんだんいろいろな意見が出てきましたから。

◎中村委員 私も経験で社会教育委員というのを3期ほどやっております、その例を申しますと、会議録は、その社会教育委員の会議の場合は、全文筆記というんですか、全文のだけです、要点のほうはなかったです。あと、会議中に発言があってオフレコにしたい場合は、話の初めにオフレコにしてくださいと言いながらやっておりました。それは有りだと思います。

今、行革とか、働き方改革とか言っているところで、我々一番考えないといけないのは、事務局の方が一番やりやすいように考えるのが妥当じゃないかという中では、その流れからすると、全文筆記の文だけ残して、要点のこれはなくてもいいんじゃないかと、我々委員が努力して全文筆記のほうを読み込めば要点筆記はなくても別にいいんで。これいろいろな審議会の中でも非常に丁寧にやっているとしたいと思います。事務局の手間暇を考えながら、我々、協力すべきところは協力して、この全文筆記のほうを読み込めば、要約のほうはなくてもいいん

じゃないかというのが私の意見です。

◎西尾委員長 なかなか読んでこの2枚をまとめるのは大変なことでもんね。しかし、あると助かることも間違いないでしょうね。

◎一山委員 ただ、後で全部消されてしまうと、会議の雰囲気伝わりにくいので、まずいなと思ったら、以上オフレコでしたという、それをおっしゃっていただければそのまま載せるということは最低限あったほうが、発言に責任を持っていただくことは必要だと思います。

◎西尾委員長 まあ原則はね、しゃべったことは記録されると。

その他何かございますか。

私が市長に手渡すときに一言つけ加えると言いますか言ったのは、前回の2年前の稲葉市長に手渡したときには、期限を区切っていたんですね。1, 2年でこういうことをやってほしい、これはワークショップで、3年～5年で若者検討会議を定着させてほしい、それから、6年～8年先をめどに、市の会議体、これは基本構想・基本計画が念頭にあるんですが、若者分科会を設置したいみたいな、まあ、そういう区切りはしていないので、できるだけ早くということを行いましたので。次のときには、そういう区切りがないということに変えますが、市長のお返事では、そう遠くないうちに実施されるんだろうなと思いました。ということをつけ加えたいと思います。

◎渡邊副委員長 私もこの会議に参加しての感想を一言述べたいと思います。皆さんがおっしゃったとおり、今回初めて、小金井市の状況がよくわからない状況で参加したんです。やっぱりすごく難しいなと思ったのは、今のお話を伺っていてもそうなんですが、市民参加を推進していくってすごく難しいことだなと改めて話を聞きながら思ったんです。というのは、市民参加が盛り上がる時はテーマが具体的なときなんです。例えば、道路を通すけどその道路は大反対とか、最近だと待機児童問題とかすごく市民参加が多いんですけど、つまり、問題にされているから参加する。でも、ここで議論しなければいけないのは、というふうなテーマがない上でどう参加を推進するのかが多分この会議の議題で。そうすると、そもそもテーマがないことを前提に広げる、だけど、人はテーマを与えて参加しないという矛盾があって、この会議の困難はおそらくそこにあるのかなと、伺いながら思いました。

これはどういうことかと言うと、具体的なテーマを設定して皆さんで議論したほうが明らかに盛り上がるし、皆さんも議論しやすい。だけど、テーマを設定し過ぎたら結局それは市民参加ではなくなるんですね。なので、誰がなるかわからないですけど、もし次期に考えるとしたら、テーマをどこまで設定してしまっているのかが大きい課題だというのが1点です。

もう一つは、多分一番初めの前半のときにすごく議論になったのは、結局この会議でやるのか・やらないのかというところが、この会議でワークショップをやるのか、どこかのワークショップに乗っかるのかというところが途中から大きく議論になったと思うんですが、この会議でできることが何なのかを初めに明らかにしておいていただきたいというのがあります。結局、できるかもしれないという形ですと行くと、皆さんすごく意識があってここに参加され

ているので、期待するわけですね。頭の中でこんなこともできるかもしれないと思って、でも、できないとなると、何だとしても思わざるを得ない。なので、できることが何なのかと、プラス、この会議は根本的に難しい会議なんだということを前提に皆さんが参加しやすい仕組みを考えるのがいいのかなということは、まず、テーマ設定のことでした。

もう一点は、これはすごく今の議論で勉強になったんですけど、結局、私なんかも、あるいは西尾先生などもそうだと思うんですけども、こういう会議体になれているので発言はしやすいと思うんですが、そうではない方々に、でも、まさに市民参加で発言していくためには、オフレコの仕組み、あるいは全文の議事録は、私は結構直しちゃうほうなんですけど、語尾がおかしくなっているところとかを、実は直していいんですよということを初めにアナウンスしておくことで、大分負荷が下がると思うんですね。そういうふうに、皆さんが思わず気にかかっているところを早めにフォローしておくことがいかに重要なのかすごく感じたので、それはぜひやっていければいいと思うし、ほかの会議体なんかでも実はそういったことが意外にこの方法は使えるのかもしれないと感じました。だから、今の議論はすごく勉強になったし、むしろここが実は今一番市民参加のことを議論したのかもしれないと思いました。

最後に、検証してほしいという部分もすごくあるんですが、1点だけ、私の中での注意点だと思うんですが、もちろん、ワークショップをやっていただきたいし、天野委員からもあったようにファシリテーション力が本当に上がっているかどうか、そういった部分をしっかり見ていきたいというのもあるんですけど、ただやっぱり1点すごく大きいのは、参加者の経験が増えていくと、実は長期的な意味で学習効果があるんだということはちゃんと覚えておいたほうがいい、つまり、すぐに成果がなくても、実は、参加する人が増えていって、市のことについていろいろな議論をする結果に長期的な学習効果があるので、短期的にわかる部分じゃないかところにもちゃんと目を向けておくということは重要なのかなと思います。特に市の方はどうしても、2回練習という話もありましたが、失敗を怖がるんですけど、まあ、やらかしてもそんなにワークショップって問題ない、議会みたいにブーブー言われたりしませんので、少しぐらいやらかしても、裏話とかすればいいと思うので、失敗を怖がり過ぎると何もできなくなるので、それは気にせずぜひやっていただきたいと思っています。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

その他よろしいですか。

私も8時ぐらいまでかなと思っていましたので、最後に、私もこういう手元の資料で進行をいただいているんですけども、最後、私が結びの言葉を言うと。

私、今回でこの会議の参加が終わるとお伝えしているのですが、4年間ですね、その前は坪郷さんって早稲田の先生がやっておられて、その方から、バトンタッチしたいということで言われました。そのとき言われたことに、意外と難しいところがあるっていうんで、名前の市民参加推進会議というイメージから来るおもしろさと比べると、実はいろいろな手続き的なことなどの議論があって、ちょっと難しいところがあるということは言われました。で、始めてみてち

よっとそれは思ったんで、前期のときには、最初2回ぐらいで若者に焦点を絞ったらどうかなという空気が出てきて、それは以前にその提案がされていたんですね、若者についてやったらどうかというのは。3期ぐらいだったですかね。というふうなので、提案はされているけど実現していなかったものを取り上げたというところで、引き続きやっておられた方もいらしたので、そういうことになりました。私も、前期やって、今回はそのまま引継ぎではどうかなと思ったんですが、希望としては、いろいろな意見もあるかもしれないから、それを決めるよりも、いろいろなアイデアがあれば出していただくというので、非常に漠然としちゃったのではないかなというのが1つの反省です。難しいですね。仕切っているのかどうなのかというのが、反省でもあり、感想でもあります。

もう一つの感想なんですけど、この次は第7期が12月にスタートするんですかね。前回の副座長をされた浅野先生が1つ心配されていて、その先生は2期か3期されたんですけど、議論することがなくなるのが気になるねと言っておられて、もう一回ぐらい若者のことでやってもいいけど、その次何するかは意外と難しいですねということを最後の感想として私に言われたんですね、多分、議事録には残っていないだろうと思うんですけども。そのことが私わりと印象的だったんですけど、そういうこともあるので、この流れの中で、これのより実践的なことを議論してもいいかもしれないんですが、休むというのも1つの手かもしれないと思います。2年やって、あとは実践に移ってみるとかですね。常に何か提案しないといけないということがあるかもしれないけれども、パブリックコメントとかいろいろ手続き的な問題、それから、審議会メンバーの公募制とかいうふうなこと、意外とこれ充実した提案をされて、それが今実施されて、それが検証されているということは、手法的なところについての議論はかなり進んだかなという気もするので、むしろ何かそれをやりながら部分修正みたいな知恵を集めていくとかですね。それはもう会議でやるというよりも、実際のワークショップの中からわき上がってくるいろいろな改善提案みたいなものを事務局で集めておくことも大事だなと思いました。

結びの言葉になかなかならないんですが、私の学生で、三鷹でいろいろなことに参加したのが、もともとのテーマは市民参加だったんですけど、やってみて、参加でないものの膨大なものが市民活動なんですね。勝手にいろいろなことを、趣味のサークルのようなものもありますし、町内会、自治会のようなものも、別に参加どうこうじゃなくて、日々の生活の中での問題解決みたいなことをやっているのだから、参加はあまりおもしろくなくて、私は最初にそういう興味を持ったのが、それやってみたらどうかと言うんだけど、いや市民活動のほうがおもしろいというので、結局そういうテーマにして、市民活動に古いものと新しいものがあるという対比をしたんですね。古い市民活動、これは町内会などが担っているもので、学生は暇だと思っている、学生は命令すれば動くものだと思っているので、どんどん若い人がそういうところを、ちょっとかじっても定着しないんですね。新しいNPOとか、さまざまな、ラジオ体操の会とかあるんですけども、そういうところは、学生も忙しいことがわかってきているし、参加できないこともわかっているしという、そこに参加している人たちの生活の様子を把握しているのだから、

非常にそれは快適でポイントが伸びていると言っていました。

市民参加の難しさというのは、市政に対して建設的な提言とか、建設的な苦情の声のようなものも出すということですが、やはりその裾野に、市民の日常的な集まりとかがあって、そこのおもしろさというのを味わうことも、前段階で大事なんだろうなと思います。市民活動推進会議と言いますか、そういうテーマをつくってやる仕方もあるかもしれないなと思いました。

というところで、結びの言葉は、そういう感想を一言述べまして、市民参加というのは永遠のテーマかもしれませんが、話が尽きてくればちょっと休むというのもいいかなと思います。

それでは、本日の会議はこれで終了したいと思います。長い期間おつき合いどうもありがとうございました。

(午後 8 時 17 分閉会)